

# 韓国の大学教員の論文数で評価されることへの不満の声

- 韓国の大学では、論文が業績評価に大きく影響するが、論文数並みにIFも重要。IFが上位30%の論文には、加算点が付与。**IF係数が高い論文を書いた場合、論文評価の点数が平均50%以上上がる**。また、米国と違って、**韓国は、昇進にあたり最低のSCI論文数が決まっており、その数が1本を大幅に上回る**。数のノルマをクリアするため、**教員は質より量にフォーカス**を当てている。

出典：「工学大学教授の業績評価改善について（2007）」

- 大学では、教授の論文を業績として評価する場合、SCIなどの**国際論文が国内で発表した論文より1.5倍ほど高い点数**が付与される。

出典：「韓国大学の論文業績評価基準の比較分析（2016）」

- 教授新聞が1992年より実施している「教授満足度調査」によれば、1992年には、教授という仕事に満足している人が78.8%だったが、2022年は56.7%に減少。不満の要因：**1位が研究環境（43.5%）、2位が過大な業務負担（36.9%）**

出典：アンケート調査：<http://www.kyosu.net/news/articleView.html?idxno=87574>

- 2016年、**ソウル大学、KAIST、POSTECH、延世大学、高麗大学が「研究者評価方法改善を求める共同宣言文」を政府に提出。「研究業績において、定量評価ではなく、定性評価を実施すべき」と主張。「論文数の増加によりランキングが上がった大学は多いものの、論文の質は相変わらず低く、論文数を評価する仕組みが、研究者の情熱と挑戦の妨げ**になっている」と指摘。

出典：<http://www.snunews.com/news/articleView.html?idxno=15817>

採用、任期延長、業績評価などで、IFを含め論文で評価される傾向が強いか？

### **3. 韓国における博士課程学生**

# 韓国の博士課程の現状

- 全博士課程に占める学業専念者の割合：46.5%（社会人博士は53.5%）※1
- 博士号取得者は、13,882人（2016）⇒16,420人（2021）と増加傾向にあるが、就職率は年々低下している。
- 社会人以外の博士号取得者就職率：60.8%(2016) ⇒ 47.3%(2021)  
（うち正規職47.4%、非正規職52.6%）（うち、大学46.1%、民間企業24.3%・・・）
- 博士号取得者のうち、社会人以外の就職状況内訳では正規雇用の割合は概ね横ばい。
- 博士号取得者（社会人（有職）博士を除く）の初任給（平均賃金）：3822万ウォン（うち、正規職5693万ウォン、非正規職2565万ウォン）（2016年時点の調査結果）

社会人以外の博士号取得者の就職状況内訳

単位（人）

区分/年		2016	2017	2018	2019	2020	2021
社会人以外※2	全体	2,406	2,611	2,551	2,385	1,834	2,367
	正規雇用	1,052 (43.7)	1,188 (45.5)	1,155 (45.3)	1,127 (47.3)	985 (53.7)	1,122 (47.4)
	非正規雇用 (フルタイム)	965 (40.1)	1,001 (38.3)	997 (39.1)	922 (38.7)	722 (39.4)	1,106 (46.7)
	非正規雇用 (パートタイム)	389 (16.2)	422 (16.2)	399 (15.6)	336 (14.1)	127 (6.9)	139 (5.9)

注) 括弧内は全体に占める割合を示す。

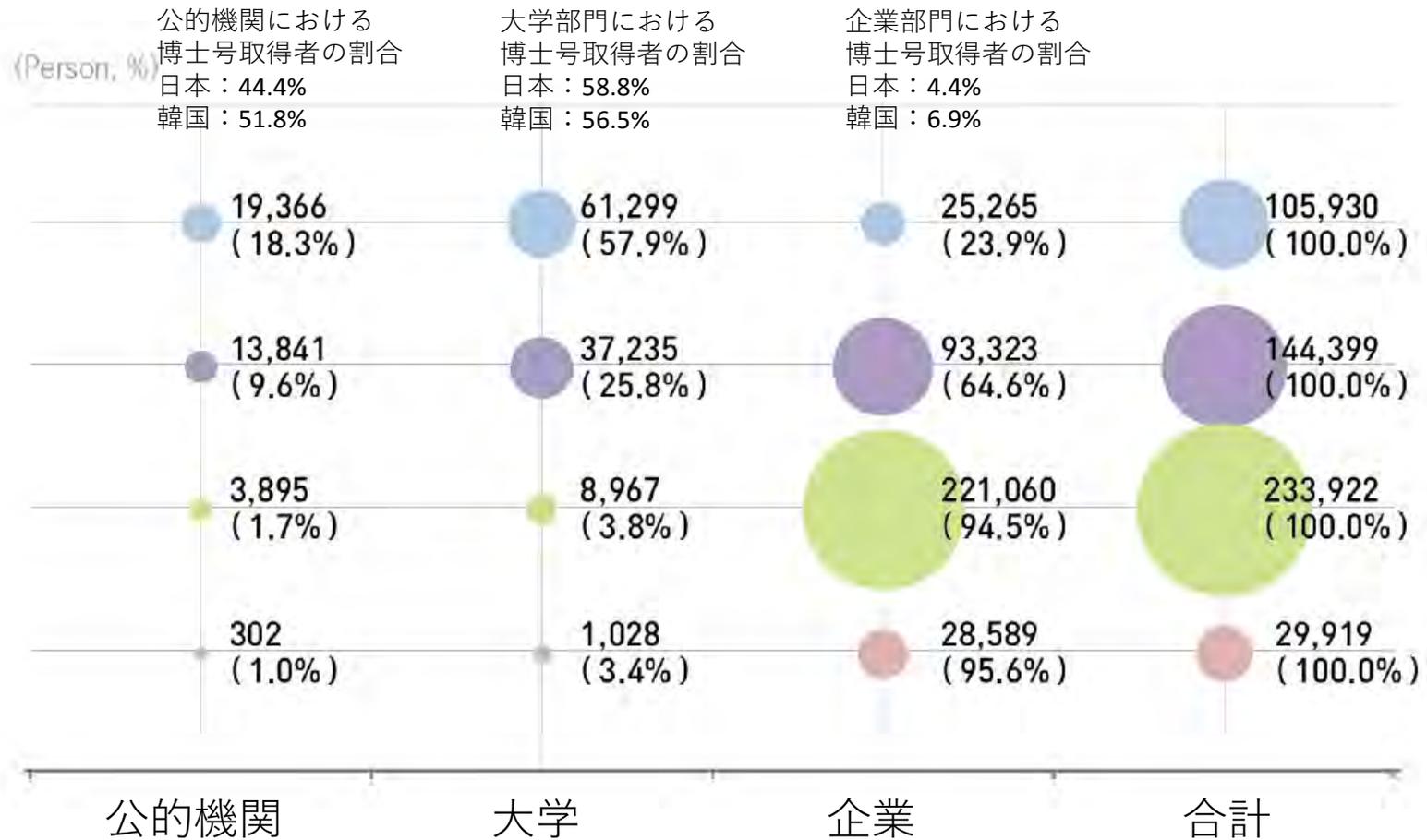
※1 の出典は、職業能力研究院「国内新規博士の人力労働市場移行の実態」（2020年度）

※2 学業だけに専念し博士号を取得した人。非正規雇用（フルタイム）はポスドク、時間講師等。

その他出典：韓国職業能力開発院「新規博士就職変化と特徴2022」

# 韓国の部門及び学位別の研究者数・割合

- 博士号取得者のうち、過半数は大学で勤務
- 企業部門では学士課程、修士課程の割合が高い。



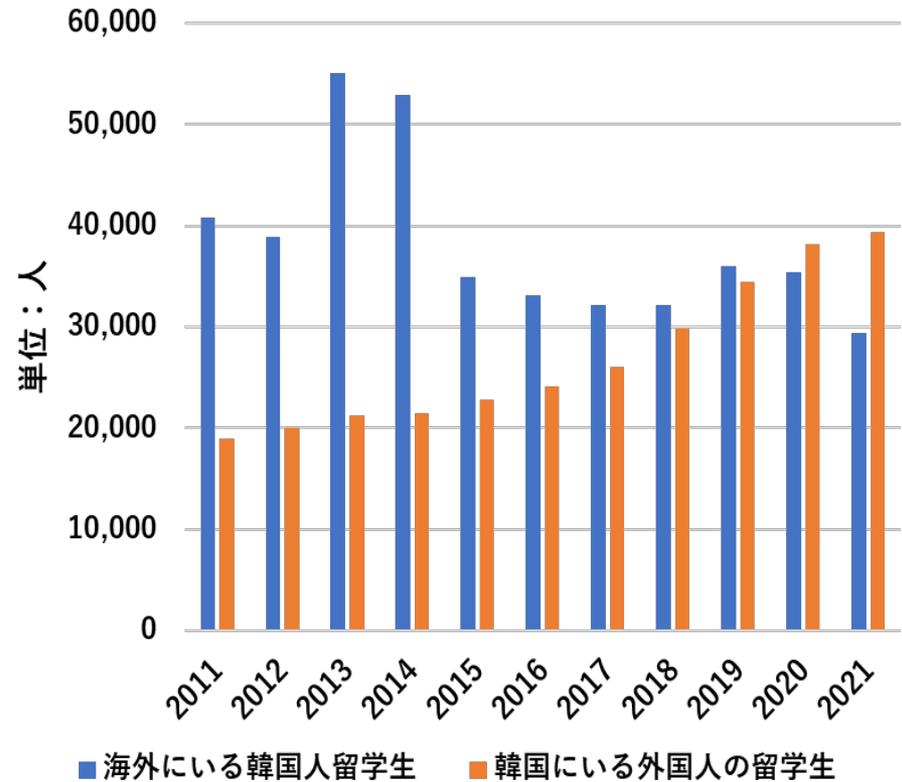
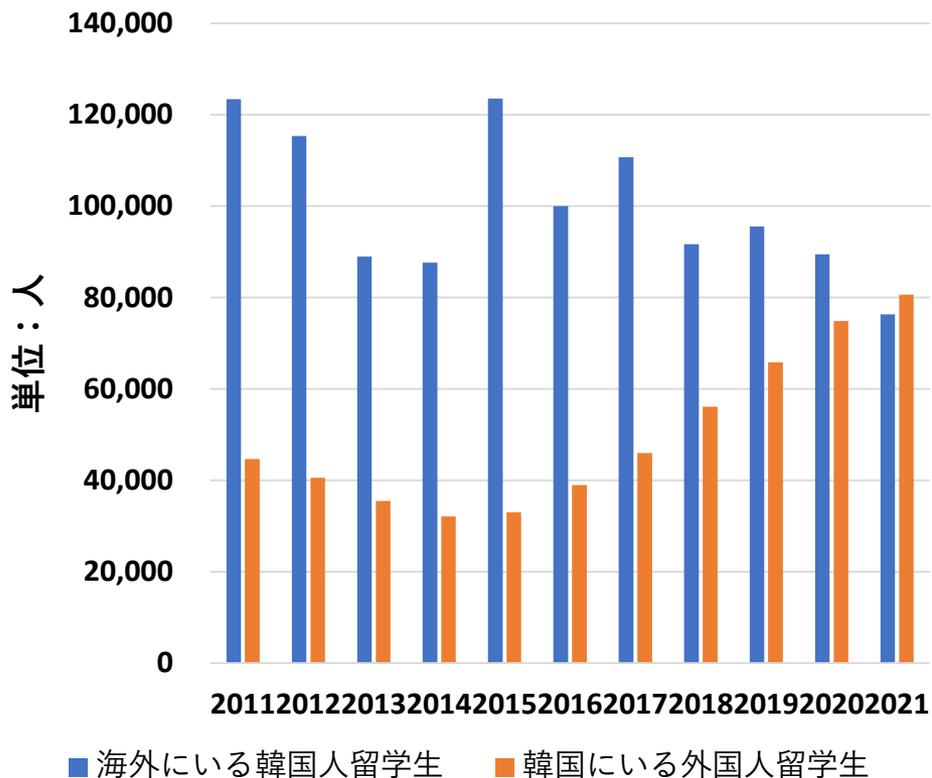
注) 2017年における値であることを留意。

出典：KISTEP 「2017 Survey of Research and Development in Korea」

# 韓国における留学生数（インバウンド、アウトバウンド）

- 2015年頃から、韓国への外国人留学生は、学部、大学院ともに増え続けている。
- 海外の韓国人留学生の数は、近年減少傾向にある。

韓国における留学生数（インバウンド、アウトバウンド）（左：学部、右：大学院）



# 科学技術人材への配慮：兵役制度

- **専門要員制度**：科学技術分野における研究人材（院生）の研究が兵役により中断されないよう、3年間指定機関での研究で**兵役を代替する制度**。
- 1973年より導入されたが、選抜制度の頻繁な変更と各種不祥事により、未だに議論の多い制度。
- 2020年の募集人数は600人。
- 科学技術院の特典⇒2021年より一般大学も対象に試験を通じて選抜。
- **産業技能要員**：技士、産業技士の資格を有する技術人材が、特定の企業等で2年10か月技術人材として勤務することで**兵役を代替する制度**。1973年より導入。企業の需要に応じて募集人数が決まるため、決まった募集人数の規定はない。

## まとめ

- 韓国の論文数は最近飛躍的に伸長。大学の研究者数（FTE）の伸びは1割程度→大学部門の論文数は63%増（2010年～19年）
- この要因として、官民の研究開発投資の大幅な増加、科学技術院の充実、理工人材の育成など様々考えられるが、職員採用、昇進、任期延長、業績評価等に論文数やIFなどの定量的な指標を重視する政府、大学の方針、制度が大きな役割を果たしている可能性は否定できない。
- また、就職環境の厳しさによる業績競争がこの傾向に拍車をかけている可能性もある。

## p.13のデータの出典および数値の取り扱いに関する注釈

### (出典)

- 人口: OECD, Main Science and Technology Indicators
- GDP: OECD, Main Science and Technology Indicators
- 総研究開発費: OECD, Main Science and Technology Indicators
- 研究者数: OECD, Main Science and Technology Indicators
- 論文数, Top10%論文数: Web of Science を基に科学技術・学術政策研究所が集計

(科学技術指標2022にデータが掲載)